

伊賀市社会事業協会 2014

2014年8月10日 第29号
発行者
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
理事長 西岡 時彦
〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL:0595-21-5545
FAX:0595-23-6670
URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

サハリンへの旅

—忘れかけていた怒りも—

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

常任顧問 森下 達也

近年、私は妻と共に「飛鳥IIサハリンクルーズ10日間」に参加した。結婚五十年は疾うに過ぎていたが、金婚旅行のつもりでもあった。ところがその数ヶ月後東日本大震災が発生する。旅行の記憶など一切切頭から吹きとんでしまったのである。当時私は三重県社協の会長、役に立たない老生であるが県下の多くの社協職員たちはブロック派遣としての大槌町支援に奮闘されたのであった。

それからまた三年余が経過した。ある日の紙上に、ロシアが中国と合同で「対日戦勝七十周年記念行事」を開催するという声明を見たのである。プーチン大統領の、ウクライナ情勢をめぐる苦境もわからないではない。中国と合同でということがミンだなど思いながら、ふと、四年前の旅の途中ユジノサハリンスク郊外で出合ったある場面を思い出し、俄に旅の記憶の全てが蘇ったのだ。回りにくい書き出しになったが、お読み頂ければ幸いである。

平成二十二年七月二十三日夕刻、横浜港大槌橋を離れた五万余総トンの巨船は、野島崎を回って太平洋を北上した。私たちの居室は八階の右舷にあり、専用のバルコニーが付いていたが、津軽海峡に入るまで見えるものは波うつ海面ばかりであった。この船には、元NHKモスクワ特派員小林和男氏が同乗していて、往路一回帰路一回の講演会を開いてくれた。私にとつての旅の主目的は、かつての日本領樺太、そして今はガスプロムが実質支配するロシア領サハリンを、この目で見たいということであったから、小林氏の掘り下げた講演は貴重であった。船は先ず、小樽と網走に寄港し上陸してあそぶ。乗客数は約七百で全てが上陸するわけではないが、上陸と帰船の確認は大変だろうな、と余計なことを心配する。

七月二十七日夕刻、網走を出港して一気に北上し、コルサコフを目指した。煌々と月の光を浴びる北の海の、美しさと淋しさは終生忘れないだろう。その昔樺太で石炭液化の研究をしていた伯父のこ



コルサコフを望んで投錨

と、敗戦後多くの同胞が命からがらの海を渡ったこと、などなど思いめぐらせながら私は、長い長いデッキを一周したのであった。一夜経て、まだ薄暗い夜明けの海をロシアのタグボートが近付き、飛鳥は停船し投錨した。ほんやりと港町コルサコフ（大泊）が見えるが、そこには大船の接舷可能な桟橋がないのである。朝食後飛鳥は、テンダーボートという自前の艀船を何隻も海に下ろして、たちまち乗客を港岸壁へと運んでくれた。

コルサコフからユジノサハリンスク（豊原）へ向かう。チャーターしたバスで約五十分、お世辞にも安全運転とは言えない疾走であったが、目下日本語を勉強中の女子学生がガイドを務めてくれた。途中、かつて日本人が住んでいた廃屋や、ロシア軍の兵舎や、ガスプロムの施設などあり、書きたいこともあるが省略させて頂く。ユジノサハリンスクに近付くと、何となく都市らしい雰囲気になってきた。やがて「勝利の広場」と称する場所があり、雪洞のような形のライトを設置するのであるのか、若者たち数人が働いていた。ガイドの学生曰く、「昔多くのロシア人兵士が命を捧げて日本軍と戦い

います」と。一寸待てよ、私は心の中で叫んだ。この七十年君たちの祖国は一体何を教えてきたのだ!

昭和二十年八月二十二日、私たちの住む遼東半島南端の都市大連にソ連機甲部隊が入り、掠奪と婦女暴行に怯える日々が始まった。突如日ソ中立条約を破棄したソ連軍が、五千五百輛の戦車を先頭に各所で国境を突破したのが八月九日の午前一時である。恐らく大連旅順まで千キロを超える行程であろうが、僅か十四日しか要していない。在満日本軍の重火器の多くは南方戦線に転用されていて、戦力も戦意も低かったことが夙に知られているが、それにしても、無人の野を行くが如くソ連戦車は驍進したに違いない。実は、戦車に蹴散らされ轢き潰された人の多くが、逃げまどう老人と女性と子どもであったという事実を私は知っている。捕虜になった日本兵はシベリアへ貨車で送られ、極寒の地の労働で多くの命が失われた。ポツダム宣言には、「日本兵は武装解除後本国へ送還されなければならぬ」と明記されていたのである。一方、カムチャツカ半島に接する占守島には、取りのこされた二万三千の日本守備隊がいた。終戦の詔勅を受けて自ら武装解除の準備をしていたところ、八月十八日突如ソ連軍の猛攻を受け已むなく三日間応戦したのである。世にも不思議な「戦後の戦争」があったことをご存知であろうか。

今更そんなことを言っても仕方ないとお考えの方もいるが、私は断じて然う思わない。北方四島の返還要求と併行して、スターリン支配下のソ連の非人道性を国際社会に繰り返し訴えるべきだったのである。今からでも遅くはない。ポーランドは、例のカチンの森事件の真相究明を一貫して主張しつづけ、ついにプーチン大統領に、ソ連軍による虐殺であったことを認めさせたのであった。付言すれば、大戦後何彼につけ核心を避けて通ろうとする私たち日本人の特性が、対東アジア外交の中にも影を落とし、有効な議論の成立を妨げたのではないかと愚考する。

ユジノサハリンスクへのバスの中で、沸々と湧いた私の怒りは間もなくおさまった。この学生ガイドは要するに知らないのだ。振り返れば日本人の若者も知らない、否、知ろうとしないではないか。



ユジノサハリンスクの屋下がり

老生にとって淋しい現実であるが、しかし、見知らぬ曠野に骨を曝す同胞の無念を想へば、私は終生死者の代弁をつづけるだろう。

さて、ユジノサハリンスクのお昼どき、あちこちのビルからサラリーマン風の若者が吐き出されてきた。大方はガスプロム系の企業の職員だそうである。政権の統制下にある国策会社の強さは私たちの想像を超えるものであるだろう。私たちは暫く街を散策し土産物を物色、孫には定番のマトリョーシカを、妻は自分用の琥珀を買った。安くて大きな琥珀であった。この旅のもう一つの収穫は、ウクライナ出身の歌手ナターシャ・グジーが同乗していて、コンサート会場やラウンジで何度も歌ってくれたことであった。彼女の父親はチェルノブイリ原発に勤務していて被曝、近くに住んでいた幼い彼女も被曝、今は日本で音楽活動をしているとのこと。透き通るような歌声も素晴らしいが、民族楽器バンドウーラでの弾き語りからは、チェルノブイリ原発事故の恐怖と被曝者としての怯えを感じ取ったのである。まさか翌春、日本でも原発事故が発生しようとは知る由もない。CDを買ったら、彼女はぎこちない漢字で私と妻の名を書いてくれた。今も日本で歌いつづけているのであろうか。

船は荒天に遭遇することもなく、予定通り八月一日横浜に帰着、暑い岸壁では東京に住む息子と孫が手を振っていた。

おわり

森下達也常任顧問が「県民功労者表彰」を受章

このたび、当法人常任顧問（前会長）である森下達也が、第50回（平成26年）県民功労者表彰（社会福祉功労）を受章しました。この表彰は、最高位の知事表彰であります。

森下常任顧問は、昭和54年当法人理事に、昭和59年には理事長に就任し、卓越した見識と的確な判断力をもって地域福祉の推進に献身的な努力を重ねました。また全国私立保育園連盟保育制度検討委員長、全国首老人福祉施設連絡協議会副会長、三重県社会福祉協議会会長など様々な要職を歴任し、歯に衣着せない主張を通じて、関係者に大きな影響を与え、社会福祉の充実発展に尽力してきた功績が評価されたものです。

私ども職員一同もこの偉業に恥じないよう、今後も研鑽を積んで参ります。

いちごご摘み



— 紅い宝石ほおぼつて —
 身体障害者支援施設 梨ノ木園

友遊旅行で、奈良市の針テラスにあるベリーファームへいちご摘みに出掛けました。利用者の方々は、いちごを器に入りきらないぐらい摘んで、□いっぱいにほおぼつていました。あすカルビー、とちおとめ、あきひめの三種類のいちごを食べ比べ、「こっちのは大きくて甘いなあ」「私のいちごハート型」など話も弾み、いちご摘みを堪能できていました。

帰りの車中も、いちご畑にいるような甘い香りが漂っており、利用者の皆さんは笑顔にあふれていました。



△新鮮ないちごに大満足

春の旅



— しいたけ狩り —
 盲養護老人ホーム 梨ノ木園

春の日帰り旅行で、奈良市月ヶ瀬にある山本きのこ山荘へ出掛けました。きのこ山荘では手のひらよりも大きい「原木椎茸」に触れ、収穫をされました。あまりの大きさに「こんな大きいしいたけが採れるとは思わなかった」と、とても驚かれています。昼食には、収穫したばかりの新鮮なしいたけでバーベキューをしました。自分たちで採ったしいたけは味もひとしおで「やっぱり採れたてはいい香りがするね。いくらでも食べられる」と、春の爽りに舌鼓をうつたれていました。



△カゴいっぱい大きなしいたけ

豆むき — 母との思い出 —

老人デイサービスセンター なしのき

初夏を感じる食材のひとつ、えんどう豆。豆をテーブルの中央に広げると「皮をむこうか？」と1人、また1人と利用者の皆さんが集まってこられ、リハビリを兼ねて豆むきをしてくださいました。

「子どもの頃は、さやも一緒に炊いて食べたんやで。ほら、こうやって薄皮をとるねん」と真剣な眼差しで、手際よく皮とさやに分けていきます。調理して味わって



△母の手伝いを思い出します

「そうそうこの味、小さい頃を思い出すわ」「お母さんの味や」と、笑みの奥に幼い頃の顔をのぞかせていました。

園内散歩 — 薫風に吹かれて —

特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園

外出する機会の少ない利用者の皆さんが、日光浴を兼ねて園内散歩を楽しまれました。

ベランダに出て、プランターに植えた野菜や花に水やりをして「きれいやなあ」「収穫するのが楽しみやなあ」と、喜ばれていました。また、屋上のウッドデッキでは「風が気持ちいい～」「いい香りがする」と、若葉がまぶしい初夏の風景を満喫されていました。



△自然豊かな上野盆地を一望

時計店を見学

「時計がいっぱい
並んでいるよ」

曙保育園

6月10日は、時の記念日。この日、5歳児50名が、市内の時計店を見学しました。店内には腕時計や掛け時計など大小さまざまな時計が並び、子どもたちは「時計がいっぱい」と大喜びでした。

中でも、子どもたちが興味を持ったのは、わずか5ミリ程の細長い腕時計でした。世界でい



△かわいい目覚まし時計がいっぱい



△世界でいちばん小さな時計を見つめる子どもたち

ちばん小さい時計であることを聞き、「ひもみたい」「どこに時計の針あるの?」と興味津々の様子。その他にも、砂時計や懐中時計、小判型の時計や、大きな柱時計など珍しい時計や不思議な時計をたくさん見せていただきました。

もう一つ、子どもたちの目に留まったのは、かわいいキャラクターの目覚まし時計です。「学校へ行ったら、この時計に起こしてほしいな」と、覗き込んでいました。

毎日の生活には、「時」が大切な役割を果たしていることを感じたようです。

キッズ“輝け”(KAGAYAKE)スクール

～子どもの健やかな成長のために親や大人ができること～

ひかり保育園



△「順番を守ろう」と約束しました

伊賀警察署生活安全課と伊賀少年サポートセンターの協働で、低年齢からの非行防止教室「キッズ“輝け”スクール」が開催されました。この教室は、幼少期から規範意識を高め非行の未然防止を図るため全県下で実施されています。紙芝居やクイズ方式でわかりやすく、子どもたちは真剣に聞いていました。

いっしょに参加した保護者は、大人が手本となってルールを教えることや自尊感情を育てる言葉がけの大切さに気づかれたようで、何度もうなずいていました。

バケツ稲作

～実りの秋を楽しみに～

みどり第二保育園

伊賀北部農業協同組合の方々にご協力をいただき、3年前から食育活動の一環として5歳児が「バケツ稲づくり」に取り組んでいます。5月下旬に稲を植え、10月上旬稲穂が黄金色になった頃に稲刈りをします。

その間、子どもたちは日毎生長する稲を



△稲の苗を植えました

観察したり、水温が高くなり過ぎた時は、水を入れ替えるなどして世話をしています。

稲の生育過程を目の当たりにして、お米を身近に感じ、食事に関心を持つようになってきました。

発達を促す支援 —感覚統合あそびを通して—

心身障害児療育保育施設 かしのみ園

年4回、「風の広場」主宰の石川和代先生から、感覚統合あそびの指導を受けています。全身を動かしたり、動きに対して体を支えたりすることで、体幹を鍛え、バランス感覚を養い、集中力や巧緻性が身についてきます。手作りの絵カードやシーツブランコ、スクーターボードなど、次々繰り広げられる楽しいあそびを、子どもたちは



△シーツブランコを使ってのバランスあそび

意欲的に体験していました。これらのあそびを日々の活動に取り入れ、療育保育の充実を図っています。

「古山音頭チャイルドバージョン」完成 ～古山だいすき～

古山保育園



△みんな元気におどったよ

途絶えていた古山音頭が、65年ぶりに復活しました。子どもたちも親しめる

ようにと、地域の方々のご協力でチャイルドバージョンが完成しました。

赤いたすきに豆絞り姿で、拍子をとりながら元気に踊る子どもたち。「ええとこ、ええとこ、古山ええとこ」のフレーズがすっかり気に入って、運動会で地域の人と一緒に踊るのを楽しみにしています。

笑顔の奥から「古山、だいすき」という声が聞こえてきそうです。

友だちや相手の人を思いやる子に育ってほしいとの願いから、5歳児のお茶の会を行なっています。

講師は、裏千家・和田宗文先生で、年6回実施しています。

子どもたちは、先生から『和敬清寂』の心をお辞儀や挨拶の仕方、お茶のいただき方などの所作を通して伝えていただき、真剣なまなざしで聞き入っていました。

お茶をいただくときに「にが



△先生のおはなしに聞き入る子どもたち

心おだやかに お茶の会

ゆめが丘保育所



△初めての味・・・

「い」という子もいましたが、抹茶にはビタミンCが多く含まれ、身体を守ってくれる役割がある」という話を聞き「全部飲む」と友だちと声を掛け合っていて、いただいています。

回を重ねるうちに作法を身に付け、卒園前には家族を招待し、お点前を披露します。

子どもたちは、いつもと違う静かな雰囲気にも慣れ、次のお茶の会を楽しみにしています。

盲人ホームをご存じですか？

伊賀市盲人ホーム

盲人ホームは、三療師（あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師）の資格を持っている



△きれいな治療室で施術中

視覚障がい者の方が働く施設です。自分で治療院を開業したり、病院や介護施設で就業ができるように技術を磨く支援をしています。

営業日：月・火・水・金・土（祝日も営業いたします）

時間：午前9時～午後5時30分

料金：30分 2,000円、60分 4,000円
90分 5,000円

（鍼灸を加えるとプラス1,000円）

場所：伊賀市上野寺町1184番地の3

電話：0595-23-1511

どなたでも治療を受けていただけます。
お気軽にお問い合わせください。

編み物大好き かしの木ひろば

利用者のHさんは、いつも自宅でラジオを聴きながら編み物を楽しんでいらっしゃいます。近くの手芸店から頂いた糸を手にするると「嬉しい、何を編もうかな」と笑顔がこぼれました。わずか1週間で夏用のストールを編み上げ披露してくださいました。

薄紫色の細やかな七宝編みがとても涼しげで

す。「わあ、すごく素敵やわあ」と仲間の皆さんが手に取ったり、身にまったりして大絶賛。照



△編み物を楽しむ利用者

れながらも嬉しそうなおHさんでした。これからも素敵な編み物ライフを楽しんでくださいね。

高校で視覚障がい疑似体験

上野点字図書館

三重県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科の2年生に「点字図書館の仕事と役割」について話をさせていただきました。

はじめに、点字図書館を利用される視覚障がい者について説明しました。弱視や視野狭窄など、様々な見え方を映像で紹介した後、実際に見え方を体験できるシミュレーション



△足元を白杖で探る生徒

眼鏡と白杖を使い、廊下を歩いていただきました。生徒の皆さんは「全然見えない」「ぶつかりそうで怖い」と言いながら、慎重に足元を白杖で探りながら歩いていました。

これからも、視覚障がいについて関心を持っていただけるよう、このような機会を大切にしたいと思ひます。

保育園で働いているKさん

かしの木ひろば

Kさんは「就労継続支援B型」を利用して、当法人内の保育園へ就職しました。仕事は、掃除や洗濯、おもちゃの消毒等です。支援継続のため面会に行くと「窓ふきと、廊下や保育室の掃除をしたよ。子どもの声を聞きながらの仕事は楽しい」と語り、がんばっている



△たくさんの洗濯物を干しました

様子がうかがえました。

Kさんへのヘルパー支援は週2回行なっています。料理、掃除、相談で関わり、保育園での仕事ぶりを聞かせてもらっています。

◆ご支援ご協力いただいている方々◆

(平成 26 年 2 月～平成 26 年 7 月)

上野点訳奉仕グループあい、
上野音訳グループしのび、名張点訳グループあかり、
名張音訳グループこたま、
ボランティアグループあゆみ、
ボランティアグループミックスジュース、
伊賀FCくノ一、絵手紙いろは、
絵本ボランティアもこもこ、華門ホール「語り部塾」、
ひよっこ育成クラブ、伊賀市上野視覚障害者福祉会、
伊賀市更生保護女性のおもこ、
伊賀市民生委員児童委員連合会、
伊賀市主任児童委員会、中央競馬馬主社会福祉財団
印代地区、大海地区、桂地区、朝屋地区、治田地区、
予野地区、小田町公民館、小田町住民自治協議会、
下友生宮農組合、友生地区住民自治協議会、
友生地区民生児童委員、長田地区住民自治協議会、
府中地区市民センター、三田地区住民自治協議会、
ゆめが丘地区民生委員児童委員、
上野徳居町老人クラブ、上野福居町老人クラブ、
寺町老人会、友生老人クラブ、中瀬地区老人クラブ、
曙保育園保護者会、睦保育園保護者会、
三田保育園保護者会、中瀬城東保育園保護者会、
友生保育園保護者会、花之木保育園保護者会、
予野保育園保護者会、長田保育園保護者会、
古山保育園保護者会、みどり保育園保護者会、
ひかり保育園保護者会、みどり第二保育園保護者会、
府中保育園保護者会、ゆめが丘保育所保護者会、
伊賀市上野仏教会、黒住教上野中教会、
日蓮宗法音寺上野支院安立寺、平井神社、
伊賀北部農業協同組合、小川整備、割草志摩、
西尾デンキ、日本フライン、ロート製菓

《団体》

— 敬称略・順不同 —

井岡 昭、稲森きぬ子、稲森千鶴子、稲森 律子、
井上 年己、大永 孝子、岡島まゆみ、岡田やえ子、
岡森眞理子、岡森 道代、岡森 英夫、岡田 勝美、
貝増 恒子、門田 進、上村 倫子、北泉 優子、
葛岡エミ子、葛原 義一、清水 栄子、角田 宗成、
角田 充代、世古 秀次、高杉すみ子、竹島 和美、
田中 澄夫、田中 美代子、谷岡 哲真子、田山 紗知子、
塚本 初子、津田 中川、中村 義信、中森 百子、
豊田 寛三、宮田 宏之、松田 節郎、藤林 政代、
前川 直美、藤森 三重、古川 清信、古川 美智代、
藤井 充子、藤原 千代、藤永 清恵、藤田 誠、
西出 成子、服部 忠文、中山 洋美、西田 定子、
中森 洋子、中川 定子、中村 義信、中森 百子、
森 一美、森 寛三、宮田 宏之、松田 節郎、藤林 政代、
森 令子、森 裕子、森 弘子、森 満枝、森 幸司、
山本 新、山本 濱子、横山紀美代、大和 幸司、

《個人》

— 敬称略・五十音順 —

ロート製薬株式会社 “かるがも基金”

上野点字図書館

ロート製薬株式会社の“かるがも基金”よりご寄付を頂戴し、録音図書を製作するためのデジタル録音機6台、マイク6本、ヘッドホン6台を購入させていただきました。



補助事業完了のお知らせ

公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団助成事業
ひかり保育園



ひかり保育園では、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団より平成25年度施設整備等助成金の交付を受け、屋上防水工事及び手摺り取り付け工事を実施することができました。

～ 平成25年度 当法人の決算諸表 (法人全体) ～

資金収支計算書

勘定科目	決算額(千円)
介護保険収入	381,354
自立支援費収入	219,624
利用料収入	40,657
措置費収入	195,777
運営費収入	1,043,544
私的契約利用料収入	1,741
その他の事業費収入	40,857
経常経費補助金収入	238,842
寄附金収入	7,340
雑収入	23,728
受取利息配当金収入	150
会計単位間繰入金収入	1,800
経理区分間繰入金収入	38,500
経常収入計	2,233,914
人件費支出	1,580,850
事務費支出	187,079
事業費支出	315,272
借入金利息支出	279
会計単位間繰入金支出	1,800
経理区分間繰入金支出	38,500
利用者負担減免額	378
経常支出計	2,124,158
【経常活動資金収支差額】	109,756
施設整備等補助金収入	317,556
固定資産売却収入	50
施設整備等収入計	317,606
固定資産取得支出	377,079
施設整備等支出計	377,079
【施設整備資金収支差額】	△ 59,473
積立預金取崩収入	125,752
財務収入計	125,752
借入金元金償還支出	3,504
積立預金積立支出	151,361
財務支出計	154,865
【財務活動資金収支差額】	△ 29,113
<当期資金収支差額合計>	21,170
【前期末支払資金残高】	338,141
【当期末支払資金残高】	359,311

事業活動収支計算書

勘定科目	決算額(千円)
介護保険収入	381,354
自立支援費収入	219,624
利用料収入	40,657
措置費収入	195,777
運営費収入	1,043,544
私的契約利用料収入	1,741
その他の事業費収入	40,857
経常経費補助金収入	238,842
寄附金収入	7,340
雑収入	23,728
引当金戻入	128,612
国庫補助金等特別積立金取崩額	84,337
事業活動収入計	2,406,413
人件費支出	1,584,735
事務費支出	187,079
事業費支出	315,271
減価償却費	140,111
利用者負担減免額	378
引当金繰入	124,038
事業活動支出計	2,351,612
【事業活動収支差額】	54,801
受取利息配当金収入	150
会計単位間繰入金収入	1,800
経理区分間繰入金収入	38,500
事業活動外収入計	40,450
借入金利息支出	279
会計単位間繰入金支出	1,800
経理区分間繰入金支出	38,500
事業活動外支出計	40,579
【事業活動外収支差額】	△ 129
【経常収支差額】	54,672
施設整備等補助金収入	317,556
国庫補助金積立積立取崩額	6,826
その他の収入(事業活動)	19,773
特別収入計	344,155
固定資産売却損処分損	10,721
国庫特別積立金積立額	317,556
その他の支出(事業活動)	19,197
特別支出計	347,474
【特別収支差額】	△ 3,319
【当期活動収支差額】	51,353
【前期繰越活動収支差額】	925,667
【当期末繰越活動収支差額】	977,020
その他の積立金取崩額	125,752
その他の積立金積立額	151,361
【次期繰越活動収支差額】	951,411

貸借対照表

勘定科目	決算額(千円)
流動資産	454,738
現金預金	246,089
未収金	207,611
前払金	1,008
仮払金	30
固定資産	3,346,075
固定資産(基本財産)	2,257,371
建物	2,069,915
土地	187,456
固定資産(その他固定資産)	1,088,704
建物	34
構築物	32,198
機械及び装置	12,402
車輛運搬具	6,130
器具及び備品	103,238
ソフトウェア	12,089
権利	898
投資有価証券	11
建設積立預金	110,000
償還積立預金	5,000
人件費積立預金	134,413
修繕積立預金	282,790
備品等購入積立預金	85,456
保育所施設設備整備積立預金	91,300
その他の積立預金	61,000
退職共済掛金	151,605
その他の固定資産	140
資産の部合計	3,800,813
流動負債	186,048
未払金	91,060
預り金	4,342
前受金	4
仮受金	21
賞与引当金	90,621
固定負債	164,705
設備資金借入金	13,100
退職給付引当金	151,605
負債の部合計	350,753
基本金	111,313
国庫補助金等特別積立金	1,617,377
その他の積立金	769,959
純資産の部	3,450,060
次期繰越活動収支差額	951,411
(うち当期活動収支差額)	51,353
純資産の部合計	3,450,060
負債及び純資産の部合計	3,800,813

新任職員の紹介

新任職員の決意と希望に満ちた声です。
それぞれの施設で奮闘する若者をよろしくお願いいたします。

子どもたちと一緒に毎日少しずつ成長できるように頑張ります。

【曙保育園】O・M

みんなの笑顔の為に、日々努力し、精一杯頭を使い行動していきたいです。

【曙保育園】M・N

笑顔忘れず、1つひとつ心を込めて取り組んでいきたいです。

【陸保育園】K・S

謙虚な気持ちを忘れずに、周りに目配り気配りをしていきたいです。

【三田保育園】U・M

何ごと子どもたちと一緒に楽しみ、頑張りたいです。

【中瀬城東保育園】H・S

毎日ニコニコ笑顔で、子どもたちと共に成長していきたいです。

【中瀬城東保育園】M・S

1人ひとりの子どもに寄り添い、子どもと一緒に成長していきたいです。

【友生保育園】G・M

子どもたちがすくすく育つように、美味しい食事を提供していきたいです。

【友生保育園】M・Y

初心の気持ちを忘れず、たくさんの事を学んでいきたいです。

【予野保育園】I・S

1人ひとりの子どもたちの成長に寄り添い、一緒に成長していきたいです。

【みどり保育園】I・K

子どもの成長に応じ、味や色どりを工夫した給食を提供したいです。

【みどり保育園】H・Y

素直さと広い視野を持って子どもに寄り添える保育者になりたいです。

【かしのみ園】F・M

1人ひとりの笑顔のため、毎日努力と反省をします。

【ゆめが丘保育所】S・H

日々成長できるように、意識しつつ仕事に取り組めます。

【梨ノ木園】O・Y

自ら誇りを持てる職場や社会をつくる為の生活を目指します。

【梨ノ木園】K・Y

今はまだ慣れていないので、頑張りたいです。

【第二梨ノ木園】E・T

1つひとつに気を配り、行動に移せるよう頑張りたいです。

【第二梨ノ木園】I・S

日々の中でたくさん悩み、苦勞し、成長し、自分の職業に誇りを持ちます。

【梨丘園】K・A



こころの健康相談室だより

「同僚や仲間と楽しく会話するにはどうしたら良いですか」と最近聞かれることが度々あります。これは、心が通じ合っていると感じる瞬間を味わいたいという人間本来の願望の表れではないでしょうか。

今日はそのことについてお話ししますね。これを使えば、あなたはそれほど口を開かずとも、相手の懐に入り込んで相手が勝手にファンになってくれます。それはまず会話のスピードを落とすことを意識しながら、次のキラーフレーズを使うことです。「そうなんだ」、「貴方はそう思うんだね」（自分がそう思うと言うのではなく）、最後に「貴方のお気持ち良く分かるよ」と付け加えます。身体の余計な力が抜けてこのフレーズを使うと効果はさらに加速します。これは共感コミュニケーションといって、熟練したカウンセラーは無意識に使っているテクニックです。「私もそう思う」と言って同感しているのではない点に注目していただけると嬉しいです。（臨床心理士 北田 義夫さん）

おめでとう
ございます

日盲社協奉仕者表彰受賞



点訳ボランティア 西田寿美代さん
音訳ボランティア 石山淑子さん

福岡県で開催された日本盲人社会福祉施設協議会主催の第62回全国盲人福祉施設大会において、上野点字図書館の点訳ボランティアの西田寿美代さんと、音訳ボランティアの石山淑子さん、書道クラブ講師の森下弘子さんが奉仕者表彰を受賞されました。

西田さんは蔵書の点訳・校正を中心に、当館の点訳グループ発足以前から蔵書製作に関わっていただいています。

石山さんは蔵書の音訳・校正に加え、盲養護老人ホーム梨ノ木園での読み聞かせの活動に携わっていただいています。

森下さんは梨ノ木園等の書道クラブ講師として、利用者の個性を大切にしながら懇切、丁寧な指導をしていただいております。

皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、多年のご奉仕に深く感謝申し上げます。



書道クラブ講師森下弘子さん

編集後記

当協会の会報は今回で第29号目を迎えました。皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝いたします。

さて8月に入り夏本番！通勤途中にたくさんさんのグリーンカーテンを見受けます。それを見るたびに、自分の中で節電等の意識が薄れてきていることに気がつかされハツとします。今年も残暑厳しいようですが、地球環境等にも配慮しつつ健康管理に努め、この夏を元気に乗り切りたいものです。

次は節目の30号です。より充実した内容をお届けできるよう職員一同一生懸命取り組んでまいります。

(編集子Y)